



ガーナの小学生と 給食メニュー交換

堀江 新子
山口県立防府養護学校

- ◆実践教科 英語
- ◆時間数 5時間
- ◆対象学年 1、2、3年
- ◆対象人数 生徒8名、教員8名

カリキュラム

■実践の目的

- ・ガーナの小学校の給食を通して、ガーナの食文化を知る。
- ・生徒同士の交流を通して、言語活動を豊富にする。

ここが素晴らしい!

「給食メニュー交換」というテーマで双方向の交流を行うことで、発信のための自己の振り返りを誘導し、ガーナを通しての自己表現を可能にしました。

- ・外国語を使って、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ：ガーナを知る ねらい：導入のためガーナを知り興味を持たせる	・地球儀でガーナを探す ・白地図でガーナの位置を確認する ・ガーナの産業を知る	地球儀 白地図 世界地図
2 限目 テーマ：ガーナの文化を知る ねらい：色、模様が多様性と独自性を知る	・ケンテ柄を描く ・ビーズを使ってプレスレットを作る	ケンテ柄のバッグ、布 ビーズ 写真
3 限目 テーマ：ガーナの子供たち ねらい：子供たちも家族の一員として重要な働き手であることを知る	・ガーナの英語の教科書を使って、子供たちの生活を理解する ・ショッピングバスケットを頭に乘せて運ぶ。	ガーナの英語の教科書 ショッピングバスケット
4 限目 テーマ：ガーナの給食 ねらい：ガーナの食文化を知る	・給食献立表を英語にする ・メールでガーナに送る	給食献立表
5 限目 テーマ：ガーナの給食 ねらい：ガーナの小学校の生徒と交流する	・依頼文、お礼文を考える ・ガーナの給食を推測し、質問を考える。	ガーナの給食メニュー ガーナの食品の写真

授業の詳細

2 時限目 ガーナの文化を知る

ガーナのケンテ柄、ビーズを作る



ガーナから持って帰ったビーズを使って、プレスレットを作りました。生徒A：『仲良しのしるしだよ!』



『頭に巻くと、たちまちガーナ人に変身できます!』
児童A：『おかあさんが、お風呂に入るときみたい!』

3 時限目 ガーナの子どもたち



出来上がった籠を市場まで、頭に乘せて運んでいきます。子どもも働き手の一人として、役立っています。



体育館でショッピングバスケットにボールを入れて運びました。
『頭はすべる、難しい〜』

4・5 時限目 ガーナの給食

- ①「ガーナの子どもたちはあなたたちが何を食べているか知りたがっています」と伝える。
- ②ガーナの学校を写真で紹介する。



今日は学年末の日、明日からは夏休みです。家からお弁当を持ってきて、みんなで一緒にお昼ごはんを食べます。
『何を食べるの?』

- ③給食メニューを黒板に貼る。
 - ・どの日のメニューにするかを生徒が選ぶ。何を代表にするかを考えさせる。
 - ・メニューを英語でどのように表すかを考えさせる。あくまでも子どもたちが考えることがポイント！（参考文献は参考までに！）

- ④「OK！送みましょう。」
 - ・挨拶文、説明文を考える。



- ⑤ガーナのメニューを受け取る。



- ・メニューからどのようなものを想像する。発音してみる。絵に描く。
- ・お礼の言葉、質問文を考える。録音する。

- ⑥お礼と質問文、テープを送る。

報告

『ガーナの理数科教育—青年海外協力隊の活動を通して』

実践教科：国際開発研究会

対象生徒：大学生、大学院生 20名

1. ガーナの概況

1. 1 地理 ガーナで発行している地図
1. 2 政治
1. 3 経済 カカオ、森林、鉱物（金）
GNP 9719百万ドル（一人あたり390ドル）1995年
経済成長率 5.0%1996年
物価上昇率27.9%1997年
失業率10%

2. ガーナ教育の概況

2. 1 概況
識字率 6歳35%（都市71%、地方41%）
教育到達度（15歳以上人口）
2000年
2. 2 問題点
学費； 公立：私立 1：40
公立と私立の格差の拡大； 「標準参照テスト」より
小学校6年生の英語と算数の合格率
2. 3 ドナーの援助動向
ドナー全体における日本の位置づけ；日本の援助は総額において小さい。
教育レベル別；他のドナーが基礎、ノンフォーマル、小学校、非識字教育に特化しているのに対して、まんべんなく援助してきたことが特徴である。

3. 青年海外協力隊の活動

3. 1 概況； 1977年に派遣開始（40周年を迎える）
理数科教師、家政隊員が50%
草の根無償案件の形成に貢献することに長い歴史を持つ
基礎計算力、基礎学力の低さを指摘している。
奨学金基金の設立；年間10名程度に供与している。

3. 2 問題点；

使用言語の問題 英語での授業、現地語の使用
教員経験の有無
現地教員定着率の低さの改善

4. まとめと今後の課題

●使用言語に関して；

英語は高等教育に進むにつれて必要であると考えられる。

●教員の経験不足 ；

授業力、適応力不足が生じる場合もある。
派遣前訓練、現地訓練の取り組みの改善・強化が必要であると考えられる。

現地教員定着率の低さにどのような解決策を提案できるか検討の余地がある。



参考文献

- ・世界白地図 作業帳 搭文社
- ・藤田裕子・ナヴィインターナショナル編著『英語で作る和食』 ナツメ社
- ・<http://genkienglish.net/schoollunchproject.htm>
- ・JICA 『ガーナ教育分野協力評価 最終報告書』(2004)
- ・Ivan Addae-Mensah *Education in Ghana A Tool for Social Mobility or Social Stratification ?* (Ghana Academy of Arts and Science 2000)